平成 30 年５月 11 日

各　　位

会　社　名　株式会社アズジェント
代 表 者 名　代表取締役社長　　杉本 隆洋
（JASDAQ・コード 4288）
問 合 せ 先
役職・氏名　取締役 経営企画本部長 葛城 岳典
電 話 番 号　03 － 6853 － 7401

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

平成30年３月期（平成29年４月１日～平成30年３月31日）の個別業績と前期実績値との間に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．平成 30 年３月期　通期個別業績と前期実績値との差異

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益 円 銭
前期実績（A） 平成 29 年３月期	4,841	337	332	312	82.02
当期実績（B） 平成 30 年３月期	3,513	△72	△76	△86	△22.63
増減額（B－A）	△1,328	△409	△408	△398	
増減率	△27.4%	－	－	－	

２．差異の理由

売上については、地方自治体におけるセキュリティ対策をはじめとしたセキュリティ対策需要が一巡したことに加え、政府セキュリティ予算概算要求を受けた独立行政法人向けセキュリティ対策が単年度から複数年度にかけてのものに変更となった影響により、当期の売上は限定的となりました。また、従前からの取扱商品に加え新たに投入した新規商品も含め、拡販に向けた新規販売代理店の立上げや案件創出に向けた施策を実施してまいりましたが、次期以降に成果が見込まれることにより、全体的に伸びを欠く推移となりました。

一方、コストについては中期経営計画の達成に向けた施策を加速させるための人員体制強化を推進し、外部からの経験者採用等により 14 名の増強を実施しました（対前事業年度比で約 114 百万円の人件費増）。更にサービス関連は、当期まで毎年 200 百万円弱の赤字事業でしたが、一定の顧客数の伸びに目途がたってきていることと、次期以降の高収益構造への転換を図るため、当期中のコスト負担と運用負担を増やし次期後半から確実な利益体質とする手立てを終了しました。具体的には、収益性を改善し利益転換するための設備投資を実施しました。設備投資により減価償却の発生と、既存設備から新システムへ切り替えるための並行運用による新旧システムの人員・運用コストの 2 重負担など一時的なコスト増加となりました。ただし、次期後半には並行運用が解消し、減価償却額も定率法採用により 2 年目以降で減額となることから、コストは大幅に減少する見込みです。

以上